

進化経済学会

ニューズレター No. 45

November. 2018

進化経済学会事務局

〒171-8501東京都豊島区西池袋3-34-1立教大学経済学部

荒川章義

03-3985-2345/a-arakawa@rikkyo.ac.jp



Plage Publique des Bains de la Police a NICE en France

撮影：西洋

+++++

オータムカンファレンス報告

理事会報告

会計関連報告

会員異動

+++++

2018年度オータムコンファレンスを終えて

第23回名古屋大会実行委員長

徳丸直穂（名古屋工業大学）

去る9月29日、名古屋工業大学にてオータムコンファレンスを開催しました。台風が近づく中にもかかわらず、43名の参加を得ることができました。コンファレンスのテーマは「技術・産業の進化と資本主義のゆくえ」です。技術発展は社会経済を形作る大きな力の一つであり、社会経済のあり方は技術発展の実用化と普及を規定すると考えられます。こうした技術と社会経済システムの共進化は、人工知能(AI)の発展に顕著にみられる情報技術の発展を経験している今日、極めて現代的な関心事でもあります。進化経済学がこの問題を考える上で重要な契機となることを狙って、有賀裕二氏（進化経済学会 前会長）を司会とする、4名の講演からなるシンポジウムを実施しました。

「人はなぜ道具を使うのか：遺伝子とミームの複雑なダンス」と題された第1講演で、久木田水生氏（名古屋大学准教授・哲学）は、道具を使う存在だと考えられてきた人間が、AIの発展にしたがって、徐々にAIに使われる存在になり始めているという認識を示し、その事態が人間の幸福に寄与しない可能性について論じられました。人工知能が人間を「ハックする」という表現はまさにその事態を表現したものでした。

第2講演「グローバル・ヒストリーのなかの産業革命と技術革新：現在への示唆」は島田竜登氏（東京大学准教授・歴史学）によるものでした。国単位ではなく世界単位で社会経済史を捉える新しい見方であるグローバル・ヒストリーについて概説されたのち、ポメラantzなどによって議論されている「大分岐」、すなわち、西洋の発展・東洋の停滞という分岐が生じたのはなぜかという大問題と、そこでの技術の役割について議論されました。具体的には、技術革新が登場し、それを使った派生技術・産業が登場してはじめて経済社会を変えていくという構図が示されました。第3講演は伊藤孝行氏（名古屋工業大学教授・情報工学）による「人工知能技術による大規模合意形成の可能性」でした。人工知能技術は今や交渉や議論の自動化を視野に収めつつあるということが、伊藤氏自身に

よる大規模合意形成システムの研究の事例に即して説明されました。そして世界の研究の最前線では、最も自動化されにくいと考えられている、研究のような知的労働の自動化を目指しているということが示されました。大方の労働が自動化される可能性があることを前提すると、失職した人が尊厳を持って生きられるような社会システムを考えるべきではないかという問題提起も行われました。

進化経済学会からの発信である第4講演は西部忠氏（進化経済学会会長）による「脱工業化をともなうグローバル資本主義のゆくえー情報化・サービス化・金融化と自由投資主義」でした。論点は多岐にわたりますが、グローバル化と脱工業化が現代の資本主義経済の2大傾向であり、とくに後者について、複製子と相互作用子の二重構造を持つ進化経済学の理論枠組みによってよりの確に把握できるということが、進化経済学の意義として強調されました。また、自由投資主義と知的財産権を徹底化することは原理的に難しく、それがグローバル化・脱工業化した資本主義の困難に他ならないということが論じられました。

以上の講演に対して、有賀裕二氏（進化経済学会前会長）の司会によるパネルディスカッションが行われ、多岐にわたる論点が議論されました。私見では、すべての講演に通底するのは、AIのような現在の技術発展に対して社会経済システムが立ち遅れているという認識だと思われます。現状を理解する上でも、またあるべき社会経済システムを構想する上でも、進化経済学の強みをどのように発揮するべきなのかを考えさせられるという意味で、有意義なシンポジウムでした。

第23回進化経済学会オータムコンファレンス理事会議事録

日時：2018年9月29日（土）11:50~12:50

場所：名古屋工業大学4号館会議室2

出席者：西部忠（会長）、徳丸宣穂（大会実行委員長）、有賀裕二、池田毅、依田高典、植村博恭、宇仁宏幸、吉地望、瀬尾崇、出口弘、鍋島直樹、西洋、福留和彦（会計）、服部茂幸、八木紀一郎、吉田雅明、荒川章義（事務局）、

欠席（委任状あり）：青山秀明、浅田統一郎、磯谷明德（副会長）、江頭進、黒瀬一弘、澤邊紀生、中原隆幸、橋本敬、廣瀬弘毅、藤本隆宏

欠席：佐々木啓明、塩沢由典、原田裕治

1 報告

1.1 会勢報告

荒川事務局担当理事より会勢報告があった。

1.2 第23回オータムコンファレンス参加状況並びに大会報告申込状況について

徳丸大会実行委員長より、オータムコンファレンスには3名のゲストスピーカーを招聘し、事前参加申込が39名であったこと、また、現状では本大会への企画セッションの申込みが8件、一般セッションへの申込みが15件、ポスターセッションへの申込みが3件あり、いまだ会場に余裕があるので申込期限を延長する旨報告があった。

1.3 日本経済学会連合報告

池田担当理事より提出された資料を回覧した。

1.4 各部会報告

特になし。

1.5 関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構に対する文部科学省からの共同利用・共同研究拠点認定継続の推薦について

荒川事務局担当理事より、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構に対する文部科学省の共同利用・共同研究拠点認定継続を推薦することが先日の理事会のメール審議で了承された旨、報告があった。

2 議題

2.1 入退会について

4名の入会希望者ならびに会費滞納による退会者について提案があり、これを承認した。

2.2 2017年度会計決算報告について

福留会計担当理事より、2017年度の会計決算報告について説明があり、これを了承した。

2.3 学会賞の選定について

荒川事務局担当理事より、諸般の事情で学会賞の選定が遅れていることの説明があり、学会賞候補が決定され次第、江頭委員長よりメール審議で理事会に諮られる予定であることが説明され了承された。

2.4 アメリカ進化経済学会（AFEE）とのジョイントセッションの設置について

宇仁理事より、本大会での企画セッションの1つをアメリカ進化経済学会とのジョイントセッションにする旨提案があり、これを了承した。

2.5 貨幣革新・地域補完通貨学会（RAMICS）2019への協賛について

西部会長より、2019年に高山市で開催予定の貨幣革新・地域補完通貨学会に学会として協賛する旨提案があり、これを了承した。

2.6 次年度開催校について

荒川事務局担当理事より、次年度開催校は東北大学である旨提案があり、これを了承した。

3 その他

西部会長より、EIERの査読者にevoecoコインのような仮想通貨を発行することを考えてもよいのではないかと
いう意見が出された。

1. 平成29年度(2017年度)収支計算書決算報告

1-1. 収入(会費、大会収入)

■正会員当該年度会費から賛助会員会費まで全てを含めた会費収入の推移(5カ年)

2013(平25)年度	2014(平26)年度	2015(平27)年度	2016(平28)年度	2017(平29)年度
4,205,000円	3,802,000円	3,622,000円	3,747,000円	3,462,000円

■会費収入会員種別(件数。賛助会員と準会員を除く)

年度	正会員 当年度分	前受会費 (正会員)	学生会員 当年度分	正会員 過年度分	学生会員 過年度分	終身会員
2016	315件	5件	24件	25件	5件	2件
2017	300件	5件	19件	19件	5件	1件
増減 (金額)	▲15件 (-15万円)	0件 (±0.0万円)	▲5件 (-2.5万円)	▲6件 (+6.0万円)	0件 (±0.0万円)	▲1件 (-5.0万円)

■第22回九州大会収入

73万2,000円(内訳: オータムコンファレンス11万円、本大会62万2,000円)

〈参考〉第21回京都大会

91万7,000円(内訳: オータム17万6,000円、本大会74万1,000円)

1-2. 支出

■構成比(対当期支出合計) 支出合計額: 2016年度4,571,262円、2017年度4,343,027円

年度	英文誌 刊行費	大会費 (オ+ 本)	事務委 託費	部会補 助費	事務用 品費	経済学会 連合会費	謝金	送金 手数料	通信費	その他 (学会賞, 選挙費 等)
2016	47.3%	35.2%	13.2%	0.6%	1.1%	※0.0%	0.4%	0.2%	※ 0.0%	2.0%
2017	49.7%	30.7%	13.3%	1.5%	0.4%	0.8%	0.4%	0.2%	0.02%	3.0%

※ 経済学会連合費は2017年度予算から支出。2016年度通信費は請求漏れ

全体の93~95%

■英文誌刊行費(シュプリンガー・ジャパン): 両年度とも経常費216万円(消費税込)

■事務委託費(国際文献社)： 647,619 円(2015 年度) → 604,937 円(2016 年度) → **575,592 円(2017 年度)**

〈参考〉 業務管理料 (12 万円/年) + 管理基本料 (780 円/人,年×会員 425 人=331,500 円) + 消費税(42,581 円/年) = 494,081 円 (事務委託費総額の約 86%)

■第 22 回九州大会大会費

133 万 5,547 円 (内訳：オータムコンファレンス 35 万 5,317 円、本大会 98 万 0,230 円)

■役員選挙費用：**79,230 円** (発送郵便料 38,562 円、返信用切手 33,620 円、封筒・シール等 7,048 円)

1-3. 九州大会 (第 22 回大会) 収支

■大会実行委員会の努力により、オータムコンファレンス・本大会とも下記の通りの結果となった

・オータム：予算 40 万円+大会収入 11 万円=51 万円

支出 35 万円 5,317 円

差額 15 万 4,683 円

差額合計

・本大会： 予算 70 万円+大会収入 62 万 2,000 円=132 万 2,000 円

↳ 49 万 6,453 円

支出 98 万円 0,230 円

差額 34 万 1,770 円 (学会口座へ振込済)

2. 繰越金推移 (下図)

■2016 年度 4,709,022 円から **2017 年度 4,560,006 円**に減少 (当期差益 ▲149,016 円)



会員異動

1. 新規入会者

会員名	フリガナ		所属機関名	会員	推薦会員
				種別	
外栞保 大介	Sotohebo	Daisuke	下関市立大学経済学部	個人 会員	井出 明先生 深見 聡先生
赤池 敬	Akaike	Takashi	北陸先端科学技術大学院大学	学生 会員	吉田 昌幸先生 小林 重人先生
イリナ グリゴロービチ	Grigorovici	Irina	九州大学大学院	学生 会員	磯谷 明德先生 王 佳先生
Le LI	Le	Li	中央大学 企業研究所	個人 会員	荒川 章義先生 有賀 裕二先生

2. 種別変更

会員名	フリガナ		変更内容	所属機関名
新村 聡	Niimura	Satoshi	正会員→終身会員	岡山大学経済学部
中尾 将人	Nakao	Masato	学生→正会員	中央大学大学院 経済学研究科
八木 紀一郎	Yagi	Kiichiro	フェロー	
土田 和長	Tsuchida	Kazunaga	正会員→終身会員	富士大学経済学部
高 哲男	Taka	Tetsuo	正会員→終身会員	九州大学
池田 雄二	Ikeda	Yuji	正会員→終身会員	阪南大学

3. 名簿変更

会員名	変更箇所	所属名
塚田 文子	送付先を自宅へ	
在間 敬子	自宅住所	
八木 勲	所属先部署名	神奈川工科大学 情報学部情報工学科
平野 泰朗	所属先	福岡県立大学 名誉教授
井出 明	所属先	金沢大学国際基幹教育院
表 弘一郎	自宅と所属先	城西大学経済学部
佐々木 一彰	所属	東洋大学国際観光学部 国際観光学科
稲水 伸行	所属	東京大学大学院経済学研究科
嶋野 智仁	アドレス	
八木 勲	所属先部署名	神奈川工科大学 情報学部 情報工学科
高 哲男	所属先	九州大学 名誉教授
高橋 真悟	自宅住所	
八木 紀一郎	自宅住所	
塚田 文子	送付先を自宅へ	
在間 敬子	自宅住所	
八木 勲	所属先部署名	神奈川工科大学 情報学部情報工学科
平野 泰朗	所属先	福岡県立大学 名誉教授
井出 明	所属先	金沢大学国際基幹教育院
表 弘一郎	自宅と所属先	城西大学経済学部

編集後記

いつか、ニューズレターの作成も人工知能（AI）が代わりにやってくれるのでしょうか。すると編集委員の仕事は楽になるかもしれないけれど、いったいどんなものが出来上がってくるのでしょうか。オータムカンファレンスから2ヵ月が経とうとしていますが、ふとこんなこと考えながらニューズレターを編集しています。

ところで、わたしは、この9月にニースで開催された欧州政治進化経済学会に参加してきました。第30回という記念的大会と立地のすばらしさ（+ネグレスコ・ホテルという格式高いホテルでのギャラ・ディナー）もあってか、多数の参加者・報告がありました。経済学の多元的共存を掲げる学会がゆえ、組まれたセッションのテーマは多岐に及び、ヨーロッパはもちろんのこと東アジアや南米からの参加者とも話す機会がありました。世界中から人が集まることで学会の活気が保たれていることをひしひしと感じました。学問的知識は公共財であるがゆえに、国際交流はその普及にとって欠かせません。今回の学会理事会の議題にもありましたが、海外とのジョイントセッションを進め、研究交流を重ねていくことは、本学会の発展にもつながると思います。

ちなみに欧州政治進化経済学会では、日本の進化経済学会の会員の方々とも充実したひと時を過ごし、質的にも量的にも申し分のない地中海料理（シーフード盛り合わせは1人前で3人分あるくらいゴージャス!）も堪能してきました。台風による浸水で関西国際空港が封鎖され、旅程を変更し、いやはや、計36時間程度をかけて渡仏したのですが、参加した甲斐がありました。

例年、秋のニューズレターはボリュームに欠けるので、この点なんとか改善できないかと思い、皆様にも事前に積極的なご寄稿をお願いさせていただきました。やはり夏の便に比べると量的には少ないのですが、引き続き学会の消息が少しでも伝わるようになんらかの工夫を試みたいと考えています。今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

ニューズレター編集担当：西洋（阪南大学）